



1月16日(日)「さった峠ハイキング」に出かけました。“さった”は漢字で“薩”と“つちへん”に“垂”の二文字なのですが、“つちへん”に“垂”の文字は日本の漢字ではないようで、パソコンでは表記できませんので“さった”とひらがなのなのです。場所は、静岡県の興津と由比の中間で、江戸時代から東海道随一の景勝地として有名な場所です。また、箱根と並ぶ当時の東海道の難所でもありました。

この日の天気予報は、“雨”でした。そして、朝も雨。でも、静岡県の天気予報は、“雨のち曇り”だったのです。そのため、参加者は、小野さんと町田の2名でした。小田急線に乗り、西に向かうにつれ天気が良くなり、新松田あたりでは、真っ白な富士山が見え、“これは期待できるゾ！”

残念ながら、さった峠からの富士山を眺めることはできませんでしたが、“虹のさった峠”の眺めを楽しみます。そして、街道の出会い“84歳で畑から白菜を収穫してきたおばあさん”＊毎年正月にさった峠に集まる七人兄弟＊みかん売りのおばさん”“望嶽亭のおばさんとおばあさん”。

「箱根旧街道」の続編、「東海道つまみ歩き」の始まりです。



“雨にも負けず...” 出かけちゃえ

2005年1月15日(土) 雪が降りました。昨年の大晦日より積もるという予報ははずれましたが、1月16日も“雪”という予報。小野さん、桜井さんから電話がありました。「明日はどうしますか」「明日の天気次第ですが、たぶん行きます」1月16日(日) 早朝、小野さんから確認の電話が入ります。「行きますか?」「行きます。インターネットで調べたら、静岡県の天気は昼から曇りみたいですよ」

7時30分、小田急線町田駅に現れたのは、結局小野さんと町田だけでした。予定通り7時37分の急行に乗り、8時31分小田原に到着、乗換です。8時38分熱海行に乗り、熱海到着9時2分。今度は、9時7分の沼津行で9時27分に沼津到着、9時30分の浜松行に乗り、10時6分興津で下車します。電車に乗っている時間は、長くのんびりするのですが、乗換時間が短く、慌ただしくて緊張します。気になる天気も電車の移動に従ってころころと変わりました。町田で小雨だったのが厚木あたりから曇りになり、どんどん明るくなり、松田では青空が広がり真っ白な大きな富士山を眺めることができました。東海道本線に乗り、海沿いを走り出すと、再び雲が多くなり、降りそうな降らなさそうないやな雰囲気になります。ここまで出かけてきてしまえば、雨なんか恐くないのですが、さった峠から美しい富士山が眺めることができるかどうかのポイントになります。先程小田急線の内車から富士山を見てしまったので欲張りに...

体が動けば楽しめる

興津駅の天気は曇りでした。駅前の和菓子屋さんで腹ごしらえをします。和菓子屋さんのおばさんが「どちらへ行かれるのですか?」「さった峠へ」「今日也大勢の人が歩いて行きましたよ」やはり人気のあるコースのようです。町田周辺だったら“大山”のようなところでしょうか。国道1号線を歩き始めて、左側にあったセブンイレブンで昼飯の調達をします。国道1号線を歩いて行くと間もなく甲府方面への国道52号線との交差点が現れ、直進します。同時に右側に国道1号線バイパスが近づいて来ますがこれに乗ってはいけません(実は乗りそうになり引き返しました)。旧道で興津川を渡ったところで左方向に行く道が現れ、迷います。ちょうどその方向から昔の乳母車のようなものに白菜などの野菜を積んだおばあさんがやってきました。「さった峠へはどう行けばよいのですか?」「もう少し先で踏切を渡れば行けるよ」「りっぱな白菜ですね」「朝、畑で収



穫するんですよ。体が動くというのはありがたいねえ」「おい、くつですか?」「84歳」「へえ!」おばあさんに教えられた道で踏切を渡るとさった峠への標識がありました。

親不知子不知の難所とは?

車が1台やっと通れるような狭い道を登って行き、直進すると国道52号線経由で興津駅に向かう途中で右折するとさった峠入口に着きました。そこは、墓地があり、墓参りに来る人の駐車場がさった峠へ来た人の駐車場を兼ねているようでした。休憩小屋で上着を脱いで、出かけようとすると小雨がぱらついてきました。傘をさして歩き始めます。細い階段状の山道を上ります。しばらくすると見事に整備された遊歩道に変わります。





7分咲きほどの寒桜を眺め、しばらく歩くと“さった峠”に到着。休憩小屋から5分程度でした。なんともあっけない感じです。“これが箱根と並ぶ難所だったとは...”

現在のさった峠（東海自然歩道）は、1655年朝鮮使節の来朝を迎えるため、それまでの東海道は、崖下の海岸を波の寄せ退く合間を見て、岩伝いに駆け抜ける「親不知子不知」の難所だったそうです。そして、今のように海岸が通れるようになったのは、安政の大地震（1854年）で地盤が隆起し陸地ができたからなのです。

富士山の代わりに虹

天気は回復して青空も見え、時折日が差しとても暖かく過ごしやすいのですが、残念ながら富士山は雲に隠れて見えませんでした。さった山の崖下にできた陸地には、東海道本線、国道1号線、東名高速が走り、右側はきれいな海。そして、目の前の



山の向こうに東海道で最も美しい富士山があるのですが…。さった峠で出会ったのは、78歳を筆頭とする7人兄弟でした。毎年正月にここに集うのだそうです。この程度のハイキングコースでも年々きつくなるとか。

彼らと別れて10分ほど歩くと、展望台がありました。展望台といっても2メートルほど高くなっているだけなのですが、一応上ことにします。すると、なるほど、よく写真でみるのはここから撮影しているのだとわかりました。そして、ちょうど前方で雨が降っているのでしょうか、虹がかかりました。“富士山のかわりに虹か。このほうが貴重かも”



山岡鉄舟・清水次郎長…忘れてる

12時、由比側のさった峠入口の駐車場に着き、全長0.94キロの“さった峠ハイキングコース”は終わりました。にぎやかなみかん売りのおばさんが、声を張り上げて観光案内をしながらみかんを売ります。100円でポンカン3つ買い、駐車場のベンチでおにぎりを食べることにしました。“昼食は軽めに”というのは、ガイドブックに載っている“倉沢屋”で街道名物の桜えびのかき揚げを食べようということになったからです。2人旅ならではの予定変更(?)

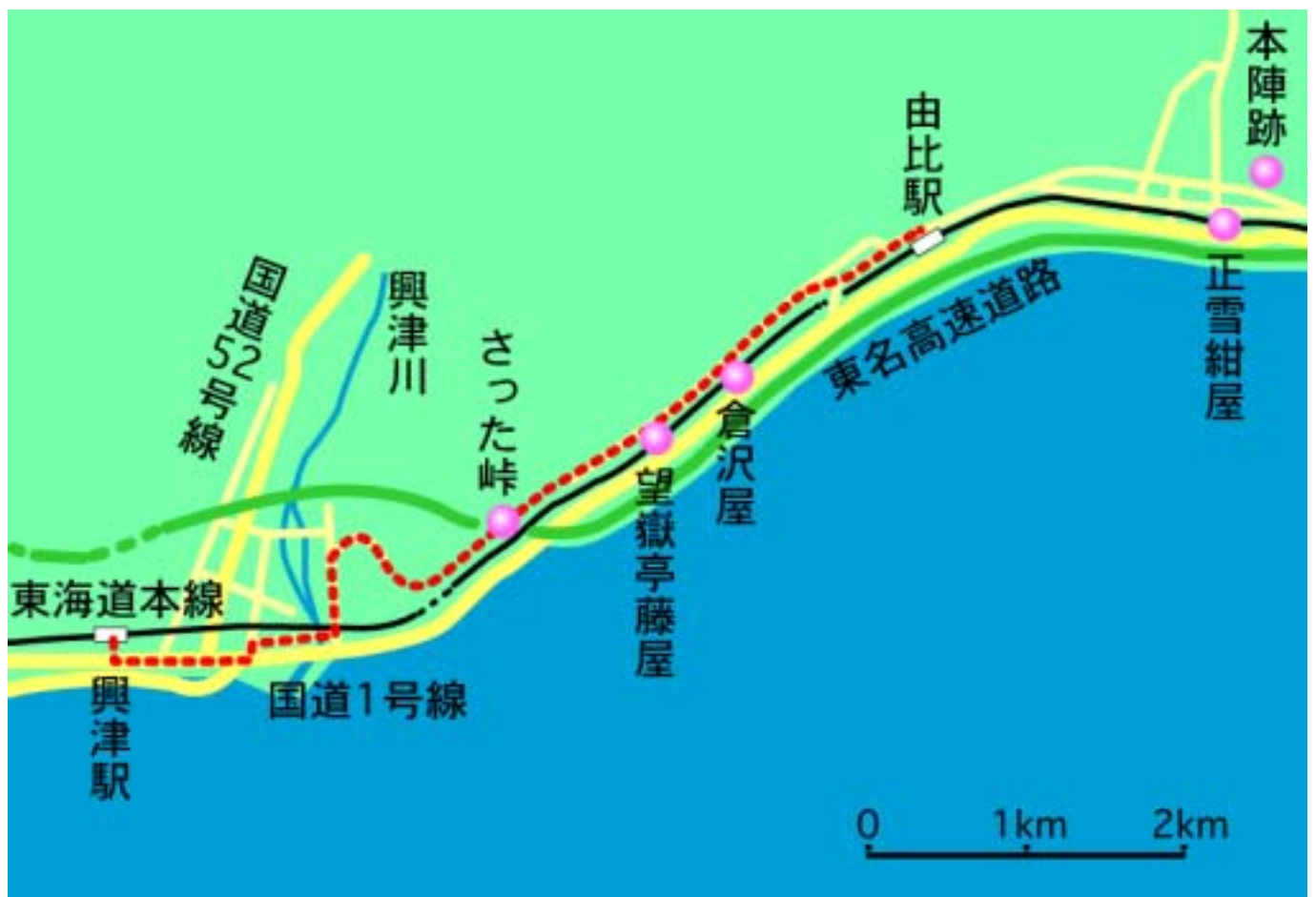
駐車場から歩き始めると、両側みかんだらけ。夏みかんのような大きいのが取り放題！なのですが、たぶん美味しくないでしょう。誰も取ろうとしないし、取った形跡もないし、持ち主すら収穫する気がなさそう。“宮部さんや揖斐さんがいたらどうしたかなあ？”25分ほどで高台から下り西倉沢の街並みが現れます。その最も手前にあるのが“望嶽亭藤屋”で、築300年の歴史のある建物で、街道時代には名物さざえの壺焼きが味わえる茶屋でした。そして、幕末には、官軍に追われた山岡鉄舟が、ここの蔵座敷の地下から漁師の格好で清水次郎長による舟で清水に逃れたというエピソードが伝えられています。山岡鉄舟はこの後、清水次郎長の助けを得て西郷隆盛と会見、江戸無血開城への道が開かれることとなります。藤屋の蔵座敷には、海へ通ずる地下への隠し階段や、漁師に化けるに不要なため残していったというピストルがありました。





旅の楽しみは名物料理！

歴史の勉強をして、出発。街道時代の家並みが残る西倉沢の街並みを歩くと5分でお目当ての“倉沢屋”に到着します。ここで名物桜えびのかき揚げ定食を食べます。桜えびは駿河湾でしか漁ができず、由比の名物になっています。旅の楽しみはやはり名物を食することにあります。“東海道中膝栗毛”など多くの道中記に倉沢の名物として登場したのはさざえの壺焼きでした。さざえの壺焼きは今や、倉沢でなくても味わえるもの。やはり桜えびのかき揚げを食べなくちゃ。“倉沢屋”を出たのが14時35分。15分ほどで由比駅に到着しました。予定では由比本陣公園に寄って蒲原駅まで歩くつもりでしたが、“倉沢屋”でゆっくりしたため時間がなくなりました。今回の東海道は由比で打ち切りました。さて、次回は蒲原からにするか？由比からにするか？どうしようかな…。





町田行弘	229-1103	神奈川県相模原市橋本 5-29-12 メゾン・アン・ソレイユ 201 042-773-7415
小野勝彦	194-0041	東京都町田市玉川学園 8-22-2 042-725-8403

